
マッチは幸せの炎

エデンの守護者

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

マッチは幸せの炎

【Zコード】

Z8871Z

【作者名】

ヒデンの守護者

【あらすじ】

火を灯し、マッチを売り、死にそうな少女は、傘をもつた少年に、恋をした。

(前書き)

全力小説シリーズ第三弾！！

兼

評判良かつたら連載しよかなー作品です！！

マツチ売りの少女をちょい切ない恋愛ものに変えてみました！！

私は、養父に言われたとおりに仕事をしていた。
しかし、マッチは売れ残り、養父に怒られ、
完売するまで家には入れないといわれた。

今田は、素敵なクリスマス。

養父の家族は皆、幸せにパーティーをしているのだろう。
でも、わたしは寒い中、
売れるはずのないマッチを売り続けている。

「やつだ、マッチに火を点ければ少しは暖かいかも！」

どうせ、卖れないし、どうせ家には入れてもられない。
そう思った私はマッチに火をつけてしゃがんで
来るはずのないお客様を待っていた。
マッチをつけるたび、温もりがあり、
そのたびに、さまざまなもの想像していた。

「最後の一本だ。」

山ほどあったマッチもついに最後になり
死んだ、母のことが走馬灯のように頭によぎった。
このマッチを摩ればそう長くない時間で私は死ぬ。
そう思うと涙が出てきた。
死ぬのなんか、もう怖くないと思つていたのに・・・
でも、安心している部分もある。
もつ少しで、お母さんのところにいけると・・・

「よし、最後だ。」

そうこうして、最後のマッチを摩ろいとしたとき

「あのー、マッチありますか?」

「え?」

自分より、10歳ほど上と思える青年が
こんな路上で売っているマッチを買いに来た。
見た目からして、それなりに裕福な家庭。
涙流しながら売つたら、きっとすべて買つてくれると
思いたくなるまでの優しそうな人。
でも、私の元には、最後のマッチしかない。

「そのマッチ・・・いくらですか?」

「え、いや、これは売つてなんかないですよ。
もう、ほとんど私が使つたので、ないです。」

せつかくのチャンスを棒に振つてしまつた私は
もう、大号泣したくなるいきおいだつた。
すると彼はハンカチを私の目にやり拭いてくれた。

「ダメですよ。女の子が泣いちゃ。
やつぱり、女の子は笑わなきや。」

彼の優しさは、私には、痛かつた。
きっとこれは、哀れんでいるのだと。
もう死ぬ私を、捨てられた子猫のように思つてこるので。

「ナニへ・おひがせ・おゆゑなせ?」

「おひがせ、捨てられたから、もう帰れない。
お母さんせ、もう死んじやつた。」

青年は、少し考えながら、私の頭をなでていた。

「だつたら、僕の家にくる?」

「え?」

その彼との出会いは、私の死を・・・
おぬやんと会つことを許してはくれなかつた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8871z/>

マッチは幸せの炎

2011年12月27日22時51分発行